

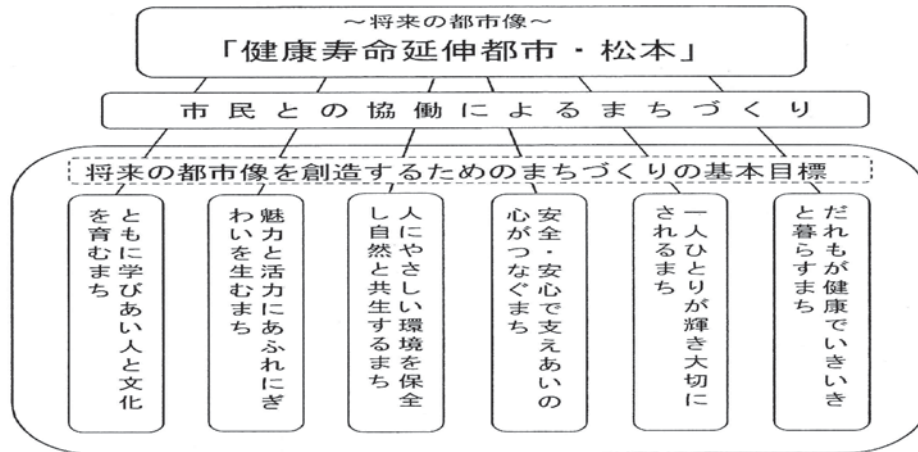
第3 都市の将来像

1 都市づくりの基本理念と将来像

松本市基本構想2020（平成22年12月）では、「健康寿命延伸都市・松本」の創造をめざし、市民と行政との協働により進めるまちづくりの基本目標を次のとおり定めました。

また、都市計画マスタープラン（平成22年3月）では、都市づくりの基本理念と将来像、都市づくりの基本目標と基本方針を次のように定めています。

【松本市基本構想 2020】



【都市計画マスタープラン】

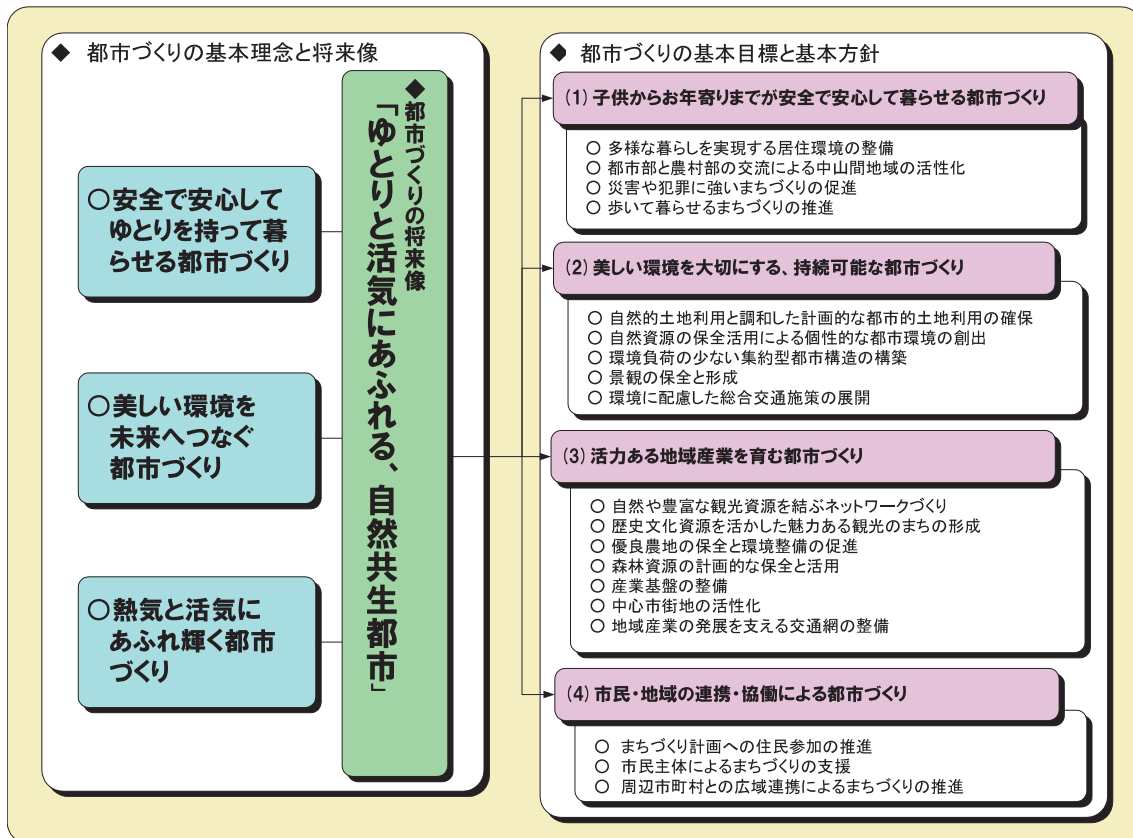


図 都市づくりの基本理念と将来像

2 将来人口の設定

都市計画マスタープランにおいて、現在の本市の年齢別人口構成や流入流出人口の現状から推計する人口推計結果（国立社会保障・人口問題研究所 H20.12月推計）に企業誘致や定住促進などの人口の流入増・流出減を図る政策による人口の定着分を上乗せして将来人口を設定し、平成37年に211,000人としています。

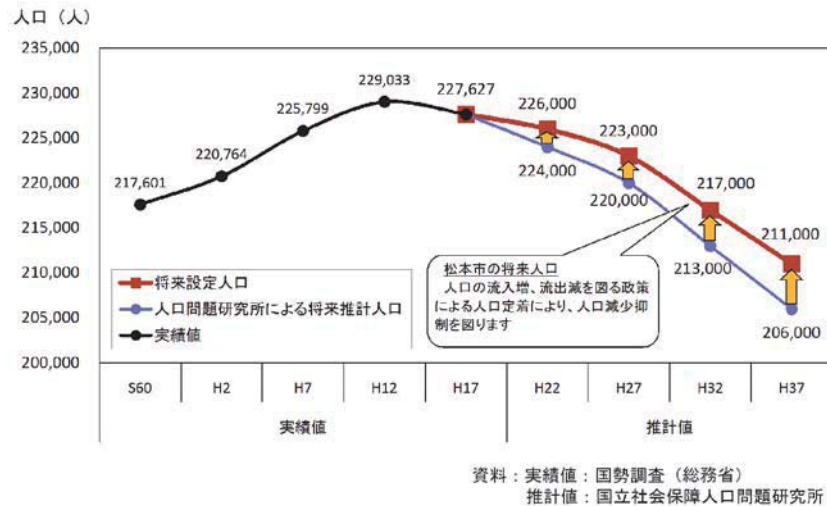


図 将来人口の設定（※旧波田町は含んでいません。）

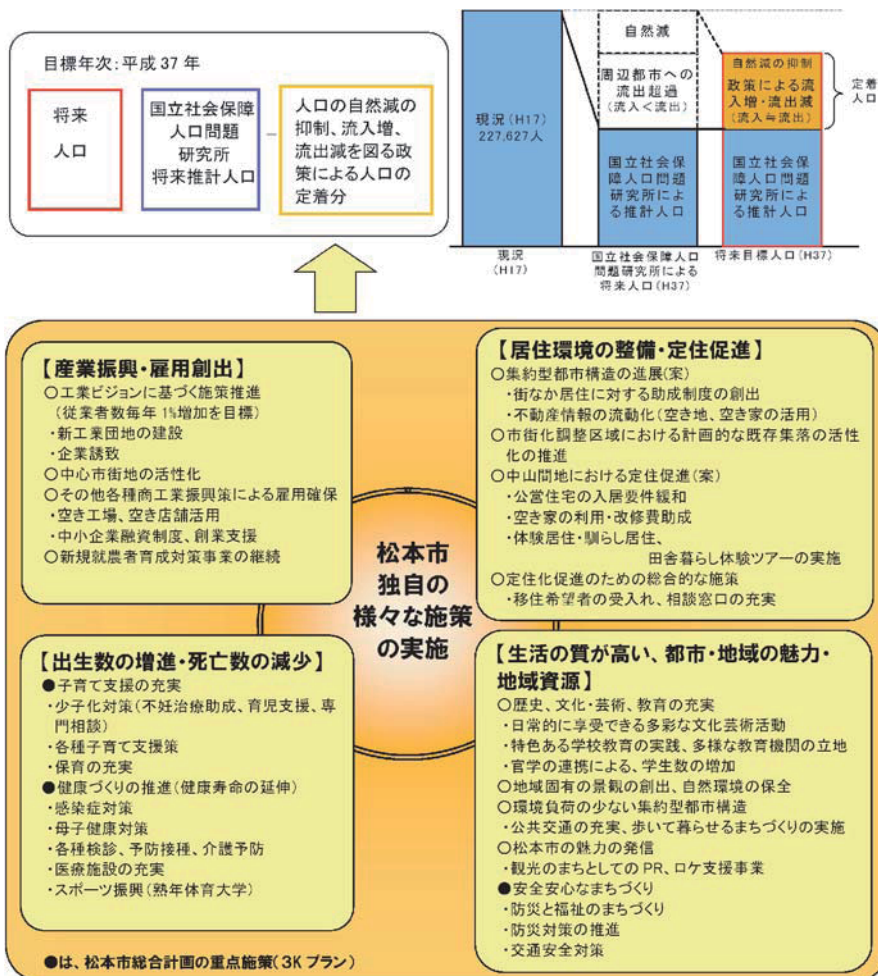


図 将来人口の設定の考え方（資料：都市計画マスタープラン（平成22年3月、松本市））

3 将来都市構造の基本的な考え方

都市計画マスタープランでは、松本市が目指す将来都市構造を土地利用や道路網の骨格構成と、これを踏まえた開発地・保全地の配置のあり方としており、将来の都市像を踏まえて、松本市が目指す都市構造の基本的な考え方を下図のように示しています。

また、市街地全体のイメージを次頁に示しています。

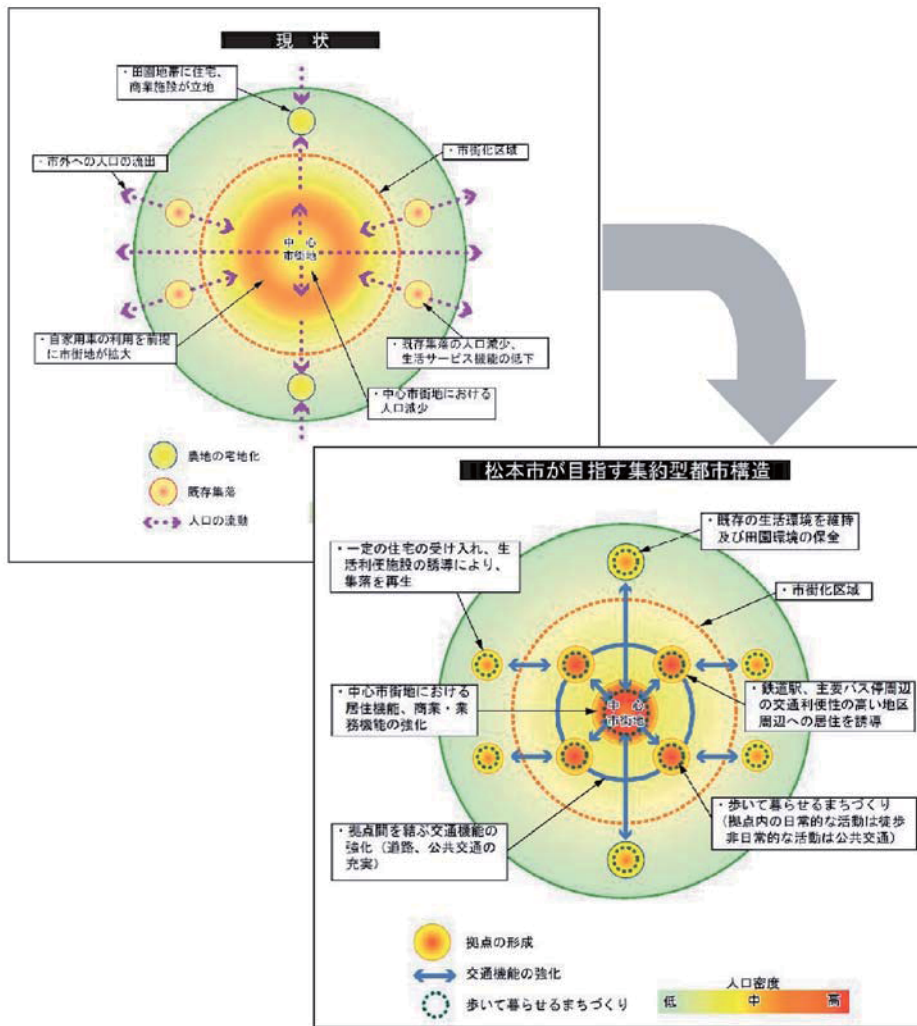
〈松本市の将来都市構造の基本的な考え方〉

本市の市街地は、中心市街地や鉄道駅周辺など、交通利便性の高いエリアへの人口誘導を図ることで、コンパクトな市街地を目指します。

このため、中心市街地や鉄道駅周辺については、既存人口密度よりも高い密度を設定します。

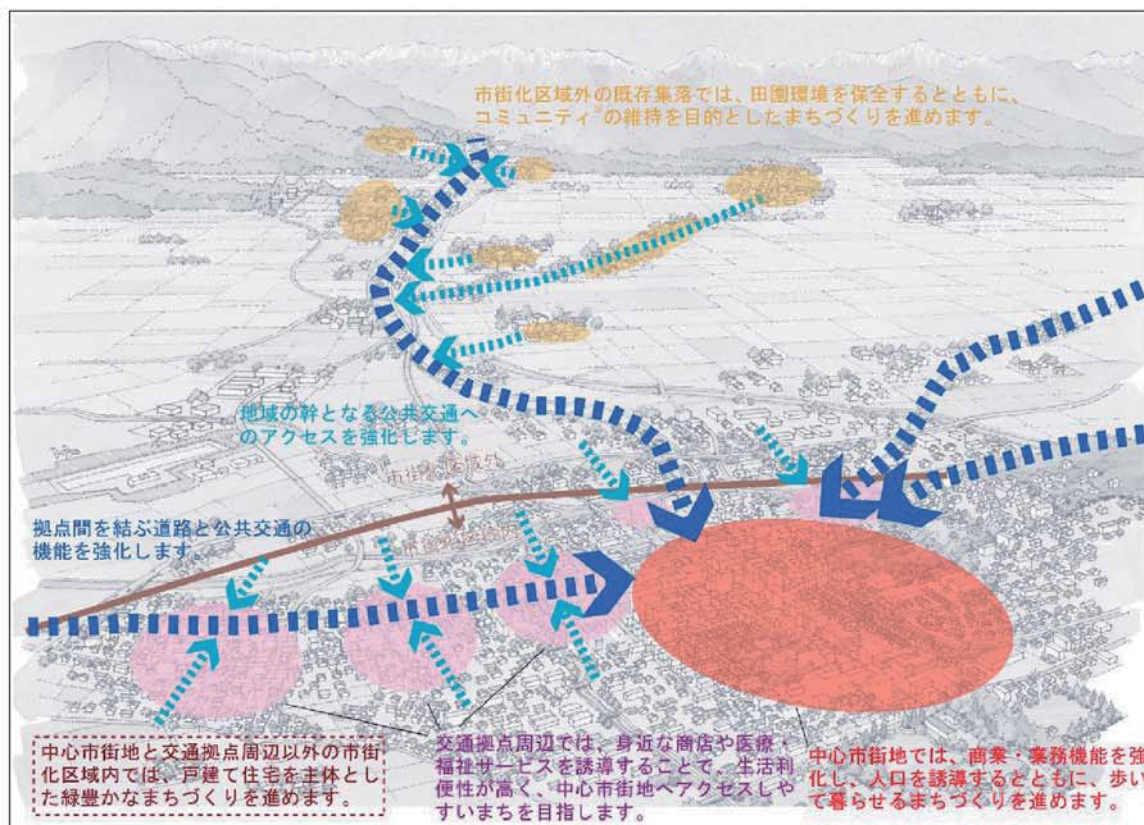
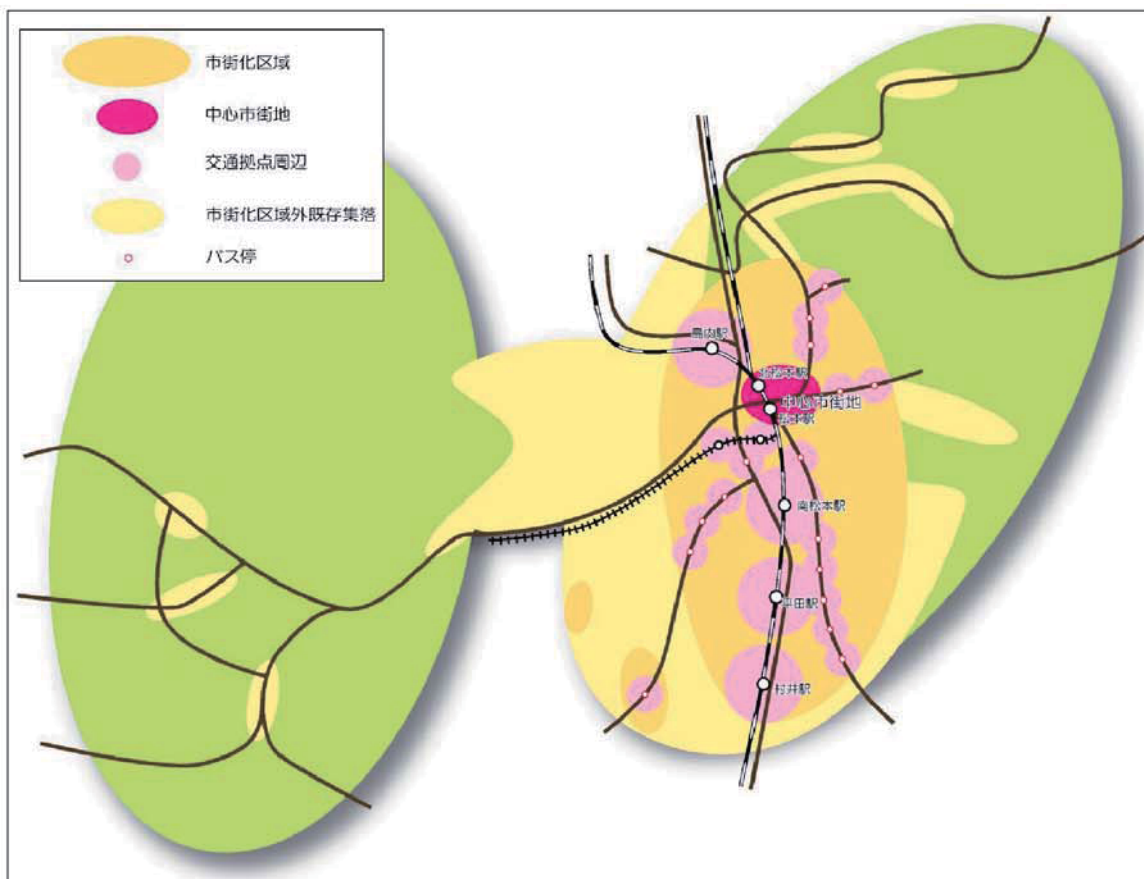
また、それ以外の市街地郊外部においては、自然環境に囲まれ敷地規模がゆったりした戸建て住宅へ誘導するため、人口密度を低く設定します。

このような、メリハリのある土地利用を図り、多様な住まい方のできる都市構造への進展を図り、既存市街地への人口誘導を図ります。



資料：都市計画マスタープラン（平成22年3月、松本市）

図 将来都市構造の基本的な考え方



資料：都市計画マスタープラン（平成22年3月、松本市）

図 将来都市構造のイメージ